

## 種子島から得られた北限記録のコチ科魚類 *Platycephalus indicus*, および本種の和名に関する経緯と標準化

古橋龍星<sup>1</sup>・今村 央<sup>2</sup>・本村浩之<sup>3</sup>

### Author & Article Info

<sup>1</sup> 鹿児島大学水産学部 (鹿児島市)  
k4596558@kadai.jp

<sup>2</sup> 北海道大学大学院水産科学研究院・総合博物館水産科学館 (函館市)

<sup>3</sup> 鹿児島大学総合研究博物館 (鹿児島市)  
motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp (corresponding author)

Received 22 March 2021

Revised 29 March 2021

Accepted 30 March 2021

Published 01 April 2021

DOI 10.34583/ichthy.7.0\_1

Ryusei Furuhashi, Hisashi Imamura and Hiroyuki Motomura. 2021. *Platycephalus indicus* (Platycephalidae) from Tanega-shima island, the Osumi Islands, Kagoshima, Japan: first record from the Osumi Islands and the northernmost record for the species. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 7: 1–6.

### Abstract

A single specimen (308.3 mm standard length) of *Platycephalus indicus* (Linnaeus, 1758), widely distributed in the Indo-West Pacific from the east coast of Africa to southern Japan, was collected from Tanega-shima island in the Osumi Islands (northern Ryukyu Archipelago), Japan. In Japanese water, *P. indicus* has previously been recorded only from the Amami, Okinawa and Yaeyama islands (middle and southern Ryukyu Archipelago). Thus, this specimen, described herein in detail, represents the first record from the Osumi Islands and the northernmost record for the species. The standard Japanese name for the species is assessed in this study.

コチ科コチ属 (*Platycephalidae*: *Platycephalus* Bloch, 1785) は頭と体がよく縦扁し、背面が櫛鱗、腹面が円鱗に被われる、眼窩後方と主鰓蓋骨が鱗で被われる、通常吻が眼窩径より長い、成長に伴い相対的に眼が小さくなり、両眼間隔が広がる、通常1–2本の涙骨棘、1本の眼前棘、および2本の前鰓蓋骨棘と主鰓蓋骨棘をもつ、鋤骨の歯帯が浅いV字状か三日月状を呈する、前方の側線有孔鱗に小棘をもつことがある、第1背鰭起部がわずかに鰓蓋縁より後方に位置する、第1背鰭と第2背鰭がわずかに離れる、胸鰭後縁が円い、および腹鰭が1棘5軟条で、軟条がすべて分枝し、第4軟条が最長であることなどによって特徴づけられる (Imamura, 2015).

本属魚類は世界で約20種が知られ (中坊・甲斐, 2013; Imamura, 2015), 日本にはヨシノゴチ *Platycephalus* sp. 1, マゴチ *Platycephalus* sp. 2, および *Platycephalus indicus* (Linnaeus, 1758) の3種が分布する (Akita and Tachihara, 2019; 本村, 2020). 国内ではヨシノゴチとマゴチは本州から九州の沿岸の砂底・砂泥底に生息し (後者の南限は種子島; 中坊・甲斐, 2013; 鎬木, 2016), *P. indicus* は奄美大島以南の琉球列島の沿岸の砂泥底に生息する (Akita and Tachihara, 2019).

2020年9月に大隅諸島の種子島における魚類調査の過程で1個体の *P. indicus* が採集された。種子島からの本種の記録はこれまで知られておらず、種子島産の標本は本種の分布の北限を更新する記録となる。また、本種は標準和名が定まっていないため、適用すべき標準和名について考察した。

### 材料と方法

標本の計数・計測方法は Imamura (2008, 2012, 2015) にしたがった。頭部の棘の名称は尼岡 (1984) を参考に Knapp (1986) と Knapp et al. (2000) の用語を和訳した。尼岡 (1984) に提示されていない棘の名称は本村ほか (2019) にしたがった。標準体長 (standard length) は体長または SL と表記した。体各部の計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行い、計測値は体長に対する百分率で示した。生鮮時の色彩の記載は、種子島産 *P. indicus* (記載標本の項を参照) のカラー写真に基づく。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

***Platycephalus indicus* (Linnaeus, 1758)**

**ミナミマゴチ (新称)**

(Fig. 1; Table 1)

**標本** KAUM-I. 146172, 体長 380.3 mm, 鹿児島県熊本



Fig. 1. Fresh specimen of *Platycephalus indicus* (KAUM-I. 146172: 308.3 mm SL) from Tanega-shima island, the Osumi Islands, Kagoshima Prefecture, Japan (A: dorsal view; B: lateral view; C: ventral view).

郡西之表市鴨女町甲女川河口 (30°43'32"N, 130°59'47"E), 種子島, 干潮時水深 0.3 m, 2020 年 9 月 20 日, タモ網, 是枝伶旺・古橋龍星.

**記載** 計数形質と体各部の体長と頭長に対する割合を Table 1 に示した. 頭と体はよく縦扁する. 吻長は眼窩径より長い. 鼻孔は 2 対で吻端と眼の中間に位置し, 前鼻孔と後鼻孔はやや離れる. 前鼻孔の後部に短い皮弁をもつ. 両眼間隔は広く, 眼窩径より大きい. 上顎の後端は眼の中央を越える. 上顎に顆粒状歯が並び, 口蓋骨歯は 2 列で, 鈍い円錐歯列が内側に, 微小な歯列が外側に並ぶ. 下顎の前方部は顆粒状歯が並び, その後方に鈍い円錐歯が並ぶ. 鋤骨に三日月状の歯帯をもつ. 両顎に犬歯をもたない. 上部の虹彩皮膜は広い三角形. 眼上皮弁はない. 頭部には棘と隆起を備える. 鼻棘と篩骨棘はない. 涙骨棘と眼前棘はそれぞれ 2 本と 1 本でわずかに突出する. 眼窩前棘はない. 眼下骨隆起と眼上隆起に棘はない. 上後側頭棘はない. 眼後棘, 翼耳棘, 後側頭棘, 上擬鎖骨棘, および頭頂棘はそれぞれ 1 本. 前頭棘と頸棘はない. 前鰓蓋棘は 2 本で下棘がやや長い, 先端は鰓蓋骨後縁に達しない. 主鰓蓋骨棘は 2 本で下棘は小さく, 皮下に埋没する. 下鰓蓋骨皮弁をもつ. 頭部と体の背面と側面は櫛鱗に, 腹面は円鱗に覆われる. 頭部は吻部から後頭部, 眼前下方, および主鰓蓋骨

にかけて被鱗する. 第 1-2 側線有孔鱗に小棘をもつ. 第 1 背鰭起部は鰓蓋後縁より後方に位置し, 第 1 背鰭と第 2 背鰭はわずかに離れる. 第 1 背鰭第 1 棘は他の棘条部と離れており, 非常に短い. 第 2 背鰭起部は臀鰭起部とほぼ同位で第 2 背鰭基底後端は臀鰭後端より前方に位置する. 胸鰭基底上端は基底下端より後方に位置する. 胸鰭後縁は円い. 腹鰭起部は第 1 背鰭第 1 棘とほぼ同位で, たたんだ腹鰭の後端は臀鰭起部にわずかに達しない. 腹鰭軟条はすべて分枝し, 第 4 軟条がもっとも長い. 尾鰭は円みを帯びた截形.

**色彩** 生鮮時の色彩 (Fig. 1) — 頭部と体部の背面と側面は褐色を呈し, 頭部は体部に比べやや薄い. 頭部には暗褐色斑が不規則に散在する. 頭部と体部の腹面は白色. 第 1 背鰭と第 2 背鰭は鰭条が薄い黄褐色で不明瞭な褐色点列があり, 鰭膜は白色半透明. 胸鰭と腹鰭は黄褐色を呈し, 褐色斑が散在する. 臀鰭は鰭条が白色で, 鰭膜が白色半透明. 尾鰭は上縁に褐色斑が散在し, その後下方に白く縁取られた前後方向に長い 1 個の黒色斑がある. 尾鰭中央部には 1 個の大きな黄色斑をもち, その下方に前後方向に長い 1 個の黒色斑があり, 尾鰭下縁は白色を呈する. 虹彩皮膜は黄褐色で褐色斑が散在する. 虹彩は褐色で, 瞳孔は青みがかった黒色.

固定後の色彩 — 頭部と体部の背面と側面は黒褐色を呈

し、腹面は黄色みがかかった白色。下顎から頬部、下鰓蓋骨皮弁にかけて暗褐色小斑が並ぶ。第1背鰭と第2背鰭は鰭条が暗色で、鰭膜は透明。胸鰭と腹鰭は褐色で、暗褐色斑が散在する。臀鰭は鰭条が白色で、鰭膜が白色半透明。尾鰭は上縁に不明瞭な褐色斑が散在し、その後下方に白く縁取られた前後方向に長い1個の黒色斑がある。生時にみられた尾鰭中央部の黄色斑は消失し、褐色がかかった白色を呈する。その下方に前後方向に長い1個の黒色斑があり、尾鰭下縁は白色を呈する。

**同定** 種子島産の標本は第2背鰭と臀鰭の鰭条数が13であること、胸鰭軟条数が19であること、総鰓把数が8であること、頭長に対する眼後長が61.5%であるこ

と、吻部、眼の前下方、両眼間、および後頭部が被鱗すること、上顎に犬歯がないこと、第1背鰭前部に1本の離れた小棘条があること、生鮮時尾鰭の中央部に1個の黄色斑があることなどの特徴が Imamura (2015) や Chen et al. (2017, 2020) によって示された *Platycephalus indicus* の特徴によく一致したため、本種に同定された。また、本標本の計測値は Imamura (2015) と Chen et al. (2017) の示した *P. indicus* の計測値にも概ね一致したが、腹鰭長 [本研究: 20.8%; Imamura (2015): 21.2–25.6%], 尾鰭長 [本研究: 14.3%; Imamura (2015): 14.7–19.9%], および頭長に対する眼窩径 [本研究: 12.1%; Imamura (2015), Chen et al. (2017): 12.6–23.6%] においては差異がみられた。これらの計測値

Table 1. Counts and measurements of *Platycephalus indicus*. Means in parentheses.

	Tanega-shima island <i>n</i> = 1	southern Ryukyu Islands <i>n</i> = 12	Southeast Asia <i>n</i> = 3
Standard length (SL; mm)	380.3	31.5–569.8	122.3–312.3
Counts			
1st dorsal-fin spines	I + VII + 0	I + VII–VIII + 0–I	I + VI–VII + 0–I
2nd dorsal-fin rays	13	13	13
Anal-fin rays	13	12–13	13
Pectoral-fin rays	2 + 13 + 4 = 19	1–2 + 12–15 + 3–5 = 19–20	1–2 + 12–15 + 3–5 = 19
Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5	I, 5
Branched caudal-fin rays	12	11–12	11–12
Pored lateral line scales (with spines)	75 (2)	67–80 (1–2)	68–72 (1–2)
Oblique body scale rows slanting downward and backward above lateral line	107	90–101	85–105
Gill rakers	2 + 6 = 8	1–3 + 6–9 = 7–11	2 + 6 = 8
Measurements (% SL)			
Head length (HL)	29.7	29.9–39.0 (31.4)	30.2–33.0 (31.4)
Body depth	10.1	7.3–10.9 (9.6)	9.3–11.6 (10.3)
Body width	18.6	18.0–21.9 (19.1)	18.6–19.1 (18.9)
Pre-dorsal-fin length	33.6	30.6–38.7 (33.0)	31.9–35.3 (33.4)
1st dorsal-fin base length	17.8	15.2–20.6 (17.9)	17.1–19.0 (18.0)
2nd dorsal-fin base length	35.6	33.3–35.8 (34.4)	32.6–36.1 (34.3)
1st dorsal-fin spine length	1.8	1.0–5.1 (2.4)	1.6–1.8 (1.7)
2nd dorsal-fin spine length	13.3	10.8–15.9 (14.4)	14.8–15.9 (15.2)
1st dorsal-fin soft ray length	11.2	9.8–13.1 (12.0)	10.9–13.0 (12.0)
Anal-fin base length	38.9	35.9–40.0 (38.0)	36.8–38.6 (37.8)
1st anal-fin soft ray length	5.7	5.4–6.4 (6.2)	5.6–5.9 (5.8)
Pectoral-fin length	13.5	13.2–15.6 (14.3)	13.0–14.1 (13.4)
Pelvic-fin length	20.8	21.6–24.1 (22.5)	20.0–22.3 (21.5)
Caudal-peduncle length	9.1	7.0–10.1 (9.1)	8.2–9.2 (8.8)
Caudal-peduncle depth	3.9	3.7–4.3 (4.0)	4.1–4.2 (4.1)
Caudal-fin length	14.3	14.0–17.2 (15.2)	14.7–16.8 (15.6)
Snout length	8.2	8.3–10.2 (8.9)	8.5–9.2 (8.8)
Upper-jaw length	11.3	11.9–13.3 (12.4)	11.7–12.5 (12.2)
Lower-jaw length	14.9	15.5–20.6 (16.5)	15.5–17.7 (16.4)
Interorbital width	4.9	2.9–5.7 (4.8)	3.7–4.9 (4.3)
Orbit diameter	3.6	3.4–7.9 (4.4)	4.0–5.6 (4.7)
Postorbital length	18.3	17.1–19.0 (18.1)	17.6–18.8 (18.3)
Suborbital width	3.0	2.2–3.3 (3.0)	2.8–3.1 (2.9)
Measurements (% HL)			
Snout length	27.4	26.0–29.8 (28.3)	27.6–28.2 (28.0)
Upper-jaw length	37.9	34.1–41.1 (39.6)	38.0–40.3 (39.0)
Lower-jaw length	50.2	49.6–55.6 (52.5)	51.4–53.6 (52.1)
Interorbital width	16.6	7.3–18.5 (15.5)	11.2–15.8 (13.6)
Orbit diameter	12.2	11.0–20.3 (13.7)	13.0–16.9 (15.1)
Postorbital length	61.5	48.8–61.1 (58.1)	56.1–60.6 (58.3)
Suborbital width	10.1	5.7–10.8 (9.5)	9.2–9.4 (9.4)

の差異はわずかであり、比較標本を用いた検討から (Table 1), 前者 2 項目は個体変異、眼窩径は成長に伴う変化であると判断した。なお、Knapp (1999) も *P. indicus* を記載しているが、彼が示した記載と分布域から、本種のほかにマゴチ、ヨシノゴチ、*Platycephalus cultellatus* Richardson, 1846, *Platycephalus angustus* Staindachner, 1866, および *Platycephalus australis* Imamura, 2015 の 5 種も含まれている可能性が極めて高いと判断される。したがって、Knapp (1999) の *P. indicus* の記載と本種に対する検索表は本種の同定には用いるべきではない。

**分布** 本種は南アフリカからモザンビーク、紅海、アラビア海、インド、ミャンマー、日本、台湾、中国、ベトナム、フィリピン、タイ、マレーシア、およびインドネシアから記録されている (Imamura, 2011, 2013, 2015, 2017, 2018; Chen et al., 2017, 2020)。国内では奄美群島 (奄美大島)、沖縄諸島 (沖縄島・久米島)、および八重山諸島 (石垣島・西表島) から記録されていたが (前田・立原, 2006; 吉郷, 2014; 松沼, 2018, 2019; Nakae et al., 2018; Akita and Tachihara, 2019; 本研究: 比較標本の項目を参照)、本研究によって新たに大隅諸島の種子島からも本種が記録された。種子島産の標本はこれまでに知られていた分布の北限を奄美大島から約 200 km 更新する記録となった。なお、種子島には同属のマゴチも分布しており、分布の南限となっているため (中坊・甲斐, 2013; 鍋木, 2016)、種子島はマゴチと *P. indicus* が唯一同所的に生息する場所であることが確認された。

**標準和名の検討** *Platycephalus indicus* は従来和名コチ (ヨシノゴチとマゴチの混合種群) の学名として適用されていたが (例えば落合, 1984)、現在 *P. indicus* は第 1 背鰭前部の小棘条が 1 本であることと尾鰭に 1 個の黄色斑をもつことにより、第 1 背鰭前部の小棘条が 2 本で、尾鰭に黄色斑をもたないヨシノゴチとマゴチとは別種であるとされている (前田・立原, 2006; Chen et al., 2020; 本研究)。そのため、和名コチは *P. indicus* に対する標準和名として適切でない。吉野 (1999) は尾鰭に黄色斑をもつコチ属魚類 (全長 50 cm) の写真とともに和名ミナミマゴチを付記した。しかし、和名ミナミマゴチには「新称」が付記されておらず、また普及啓発を主目的とした出版物 (図鑑ポスター) で書かれたため [これらは日本魚類学会標準和名検討委員会 (2020) で新標準和名の適切な公表要件から外れる]、同和名が吉野 (1999) によって標準和名として新たに提唱されたものであるのか不明であった。標準和名は原則として「日本産魚類検索 全種の同定 第二版」を起点とすることが提案されているが (日本魚類学会標準和名検討委員会, 2020)、同文献におけるコチ科 (中坊, 2000) および同文献の第三版 (コチ科は中坊・甲斐, 2013) では *P. indicus* もミナミマゴチも掲載されなかった。前田・立原

(2006) や鳥居ほか (2011) は沖縄島から *P. indicus* を報告したが、和名は使用せず「コチ属の 1 種」として記録した。和名ミナミマゴチと学名 *P. indicus* を併記した最初の報告は吉郷 (2014) であり、「種小名の扱いは前田・立原 (2006)、標準和名は吉野 (1999) に準拠した」という但し書きから、ミナミマゴチが初めて標準和名として扱われたとみなすことができる。なお、清水・渡辺 (1997) はマゴチの記述の中で日本魚類学会年会の講演要旨 (坂下・吉野, 1992) を引用し、「*P. indicus* はミナミマゴチに相当する」と記した。太田ほか (2017) も沖縄島沿岸域における漁業重要種として「ミナミマゴチ *P. indicus*」をリストした。三浦 (2012) は知念市場の魚図鑑の中で学名を伴わず和名ミナミマゴチとして本種の写真を掲載した。しかし、その後も Akita and Tachihara (2019) や Hara and Sunobe (2021)、松沼 (2018, 2019) は和名を使用せず、松沼 (2018, 2019) は奄美大島から得られた尾鰭に黄色斑があるコチ属の 1 標本を「コチ属の一種」として報告した。

本種の和名や学名に関する上記の文献の多くが未公表扱いの年会講演要旨 (坂下・吉野, 1992) と一般向けの図鑑ポスター (吉野, 1999) に基づく、琉球列島産陸水性魚類の文献目録 (吉郷, 2014) や魚類相、漁業種のリスト (太田ほか, 2017 など) であり、*P. indicus* の標本や記載に基づく報告ではないために、和名ミナミマゴチの位置づけが曖昧になっていると考えられる。ただし、尾鰭に黄色斑があるコチ属の一種、学名 *P. indicus*、および吉野 (1999) の和名ミナミマゴチは同一種を指しており、これら三者の関係に混乱は認められないため、本研究でも本種の標準和名にはミナミマゴチを適用するのが適切であると判断した。しかし、上記のようにミナミマゴチを標準和名として採用しない報告も多いことから、本研究では種子島産の標本に基づき、*P. indicus* と同定される種に対し改めて標準和名ミナミマゴチを提唱する。新標準和名は坂下・吉野 (1992) の和名ミナミマゴチに由来し、種子島産の 1 標本 (KAUM-I. 146172) に基づく。

**比較標本** ミナミマゴチ *Platycephalus indicus*, 15 標本 (体長 31.5–569.8 mm): KAUM-I. 1602, 体長 102.6 mm, 鹿児島県大島郡奄美市笠利町手花部, 奄美大島, 水深 0.3 m, 1991 年 8 月 12 日, 投網; KAUM-I. 16733, 体長 122.3 mm, マレーシアトレンガヌ州セティウ, 水深 1 m, 2008 年 10 月 28 日; KAUM-I. 22969, 体長 240.7 mm, タイ王国チャチュンサオ県バーンパコン川河口; KAUM-I. 35936, 体長 296.6 mm, 琉球列島; KAUM-I. 53983, 体長 181.5 mm, 沖縄県名護市, 沖縄島, 水深 1 m, 2013 年 1 月 13 日, 手網, 桜井 雄; KAUM-I. 57034, 体長 312.3 mm, タイ王国ラヨン沖, 水深 10 m; KAUM-I. 79333, 体長 405.8 mm, 鹿児島県大島郡奄美市, 奄美大島, 2015 年 7 月 24 日, 畑 晴陵; KAUM-I. 83549, 体長 392.7 mm, 琉

球列島南部, 2015年12月23日, 桜井 雄; KAUM-I. 83963, 体長331.5 mm, KAUM-I. 83964, 体長392.4 mm, 沖縄県名護市城名護港沖, 沖縄島, 2016年2月22日, 刺網, 畑 晴陵・小林大純; KAUM-I. 86735, 体長569.8 mm, 2015年12月25日, KAUM-I. 126565, 体長446.2 mm, 2018年12月14日, 鹿児島県大島郡奄美市, 奄美大島, 前川隆則; KAUM-I. 134281, 体長374.8 mm, 沖縄県八重山郡竹富町仲間川, 西表島, 水深1 m, 2019年10月30日, 釣り, 中村潤平; KAUM-I. 144627, 体長31.5 mm, 鹿児島県大島郡龍郷町龍郷湾, 奄美大島, 水深0.3 m, 2020年7月22日, タモ網, 赤池貴大; KAUM-I. 154184, 体長447.9 mm, 沖縄県石垣市名蔵, 石垣島, 水深0.3 m, 2021年3月18日, タモ網, 古橋龍星・是枝伶旺・赤池貴大.

## 謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり, 鹿児島大学水産学部的是枝伶旺氏と清水直人氏には採集調査にご協力いただいた。同大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生とボランティアのみなさまには, 標本の作製および登録作業においてご協力いただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。マレーシア産の標本はマレーシア高等教育省, プトラマレーシア大学, およびトレンガヌ大学の協力のもと JSPS 研究拠点形成事業の一環で採集された。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」, JSPS 科研費 (26241027, 26450265, 20H03311), JSPS 研究拠点形成事業— B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。

## 引用文献

- Akita, Y. and K. Tachihara. 2019. Age, growth, and maturity of the Indian flathead *Platycephalus indicus* in the waters around Okinawa jima Island, Japan. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-019-00680-2 (24 Jan. 2019), 66: 330–339 (25 July 2019).
- 尼岡邦夫. 1984. フサカサゴ科, p. 296. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編) 日本産魚類大図鑑 (解説). 東海大学出版会, 東京.
- Chen, Z. and T. X. Gao. 2017. Morphological re-description and DNA barcoding of *Platycephalus indicus* collected from Beihai, China. *Pakistan Journal of Zoology*, 49: 1647–1655.
- Chen, Z., N. Song, J. Zou, Y. Qin, L. Ma and T. X. Gao. 2020. Identification of species in genus *Platycephalus* from seas of China. *Journal of Ocean University of China (Oceanic and Coastal Sea Research)*, doi: 10.1007/s11802-020-4158-1, 19: 417–427.
- Hara, N. and T. Sunobe. 2021. Mating system and protandrous sex change in “Magochi” *Platycephalus* sp. 2 (Platycephalidae). *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-021-00808-3 (28 Mar. 2021).
- Imamura, H. 2008. Synonymy of two species of the genus *Platycephalus* and validity of *Platycephalus australiae* (Pisces: Scorpaeniformes). *Ichthyological Research*, 55: 399–406.
- Imamura H. 2011. Platycephalidae, pp. 72–75. In Matsunuma, M., H. Motomura, K. Matsuura, N. A. M. Shazili and M. A. Ambak (eds.) *Fishes of Terengganu – east coast of Malay Peninsula, Malaysia*. National Museum of Nature and Science, Tsukuba, Universiti Malaysia Terengganu, Terengganu, and Kagoshima University Museum, Kagoshima. ([https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/TFG\\_highres.pdf](https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/TFG_highres.pdf))
- Imamura, H. 2012. Redescription of *Platycephalus angustus* Steindachner 1886 (Teleostei: Platycephalidae), a valid flathead in northern Australia and New Guinea. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-012-0319-6 (21 Dec. 2012), 60: 112–121 (10 Apr. 2013).
- Imamura, H. 2013. *Platycephalus indicus*, p. 90. In Yoshida, T., H. Motomura, P. Musikasinthorn and K. Matsuura (eds.) *Fishes of northern Gulf of Thailand*. National Museum of Nature and Science, Tsukuba, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto, and Kagoshima University Museum, Kagoshima. ([https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/ThaiFG\\_high.pdf](https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/ThaiFG_high.pdf))
- Imamura, H. 2015. Taxonomic revision of the flathead fish genus *Platycephalus* Bloch, 1785 (Teleostei: Platycephalidae) from Australia, with description of a new species. *Zootaxa*, 3904: 151–207.
- Imamura, H. 2017. *Platycephalus indicus*, p. 72. In Motomura, H., U. B. Alama, N. Muto, R. Babaran, and S. Ishikawa (eds.) *Commercial and bycatch market fishes of Panay Island, Republic of the Philippines*. Kagoshima University Museum, Kagoshima, University of the Philippines Visayas, Iloilo, and Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto. ([https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/PhilippineFG\\_highres.pdf](https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/PhilippineFG_highres.pdf))
- Imamura, H. 2018. *Platycephalus indicus*, p. 89. In Kimura, S., H. Imamura, V. Q. Nguyen and T. D. Pham (eds.) *Fishes of Ha Long Bay, the World Natural Heritage site in northern Vietnam*. Fisheries Research Laboratory, Mie University, Shima. (<http://zaga.bio.mie-u.ac.jp/japanese/publications/HaLong%20Bay/HaLongBay-small.pdf>)
- 鏡木 紘一. 2016. 種子島の釣魚図鑑. たましだ舎, 西之表. 157 pp.
- Knapp, L. W. 1986. Family No. 155: Platycephalidae, pp. 482–486. In Smith M. M. and P. C. Heemstra (eds.) *Smiths’ sea fishes*. Springer-Verlag, Berlin.
- Knapp, L. W. 1999. Platycephalidae, pp. 2385–2421. In Carpenter K. E. and V. H. Niem (eds.) *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol 4. Bony fish part 2 (Mugilidae to Carangidae)*. FAO, Rome.
- Knapp, L.W., H. Imamura and M. Sakashita. 2000. *Onigocia bimaculata*, a new species of flathead fish (Scorpaeniformes: Platycephalidae) from the Indo-Pacific. *Special Publication J. L. B. Smith Institute of Ichthyology*, 64: 1–10.
- 前田 健・立原一憲. 2006. 沖縄島汀間川の魚類相. *沖縄生物学会誌*, 44: 7–25.
- 松沼瑞樹. 2018. コチ科, pp. 78–79. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島, 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原, 国立科学博物館, つくば. ([https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/Amami\\_highres.pdf](https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/Amami_highres.pdf))
- 松沼瑞樹. 2019. コチ科, pp. 81–82. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/FishCollectionManual.pdf>)
- 本村浩之. 2020. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 360 pp. ([https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/2020\\_05\\_JAFList.pdf](https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/2020_05_JAFList.pdf))
- 本村浩之・田口潤平・今村 央・松沼瑞樹. 2019. 高知県から得られた北西太平洋初記録のコチ科魚類 *Thysanophrys randalli* コケチクロシマゴチ (新称), および *T. chiltonae* クロシマゴチとの形態比較. *魚類学雑誌*, doi: 10.11369/jji.19-034 (12 Dec. 2019), 67: 1–9 (25 Apr. 2020).
- 三浦信男. 2012. 美ら海市場図鑑 知念市場の魚たち. ウェーブ企画, 与那原. 141 pp.
- 中坊徹次. 2000. コチ科, pp. 615–620, 1530–1531. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第2版. 東海大学出版会, 東京.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013. コチ科, pp. 734–740, 1953–1955. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.

- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo*, 52: 205–361. (<https://www.kahaku.go.jp/research/researcher/papers/290248.pdf>)
- 日本魚類学会標準和名検討委員会. 2020. 魚類の標準和名の命名ガイドライン. <http://www.fish-isj.jp/iin/standname/guideline/guidelines2020.pdf> (26 Mar. 2021).
- 落合 明. 1984. コチ科, pp. 307–308, pls. 288–289. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編) 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 太田 格・上原匡人・海老沢明彦. 2017. 漁獲量を指標とした沖縄島沿岸域における漁業重要種及びその生態的機能・成育場の評価 (沖縄沿岸域の総合的な利活用推進事業). 沖縄県水産海洋技術センター事業報告書, 77: 61–75. (<https://www.pref.okinawa.jp/fish/kenkyu/jigyohokoku-data/jihouh27/61-75.pdf>)
- 坂下光洋・吉野哲夫. 1992. 日本および東南アジア産コチ属魚類の分類, p. 42. 1992 年度日本魚類学会年会講演要旨. 日本魚類学会, 東京.
- 清水孝昭・渡辺昭生. 1997. 伊予灘における底生魚類群集の季節変動. 愛媛県水産試験場研究報告, 6: 11–39. (<https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2030550438.pdf>)
- 鳥居高志・塩根嗣理・加藤憲一・杉浦幸彦・黒川忠之・大野正博・大城朝一. 2011. 河口閉塞による感潮域魚類相への影響. 応用生態工学, 13: 123–139. ([https://www.jstage.jst.go.jp/article/ece/13/2/13\\_2\\_123/\\_pdf-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/ece/13/2/13_2_123/_pdf-char/ja))
- 吉郷英範. 2014. 琉球列島産淡水性魚類相および文献目録. *Fauna Ryukyuana*, 9: 1–153. ([http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/bitstream/20.500.12000/38625/1/FR9-2\\_Yoshigou.pdf](http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/bitstream/20.500.12000/38625/1/FR9-2_Yoshigou.pdf))
- 吉野哲夫. 1999. 沖縄の魚 1055. 琉球出版社, 那覇. 62 pp.